

858回目となるこの日は、朝から3年生のみなさんが献花用の花を持ってきてくれました。ありがとうございました。

今日の祈念式は、5年生の先生方から「平和祈念館」についてのお話がありました。

○平和祈念館は、もとは城山小学校の子どもたちが勉強する校舎でした。稲佐山のふもとの、緑豊かな丘の上にそびえたち、白く美しい校舎として有名で、子どもたちにとって自慢の校舎でした。



○しかし、1945年8月9日に落とされた原子爆弾により、城山小学校に通っていた1400名ほどの児童、31名の先生たちが亡くなりました。生き残ったのは、45名の児童と4名の先生でした。たくさんの尊い命が奪われ、白く美しい自慢の校舎は、壊されてしまったのです。



城山小学校では勉強ができなくなり、お隣の稲佐小学校の教室を借りて勉強することになりました。

○その後、被爆した校舎を修理し、教室として勉強できるようになります。時が経ち、古くなって危険だということで、被爆校舎を取り壊し、新しい校舎に建て直す案が出されます。しかし、原子爆弾が落とされたときに実際に被害にあった建物を残したいという当時の育友会や慰霊会などの皆さんの強い訴えから、階段塔とその両側の教室を含んだ校舎が残されることになりました。



○被爆校舎を残したものの、その後14年間は、危険な建物としてフェンスで囲まれ、立入禁止になっていました。しかし、「原子爆弾の恐ろしさを伝えるために残したのだ」という城山小の子どもたちの願いが叶い、当時の資料が見られる今の祈念館となりました。



○祈念館になったあとは、原子爆弾による爆風で壊されてしまった城山小学校の校舎や城山の町の様子、熱線により炭になってしまった木煉瓦（もくれんが）、城山小学校で亡くなられた方々の名簿や写真などの貴重な資料が展示されています。これらの資料は、原子爆弾の恐ろしさだけでなく、被爆された方々の思い、平和を願う人々の思いも一緒に伝えています。



○平和祈念館には、毎日たくさんの方が見学に訪れています。大人も子どもも、長崎だけではなく日本全国から訪問されています。コロナが流行する前には、世界中からたくさんの方が学びに訪れていました。

○訪問した人たちの手紙や寄せ書きには、原子爆弾の恐ろしさについて知ったこと、今過ごしている日常の大切さなど、平和への思いが書かれています。祈念館に込められた平和への願いが、訪れた人たちによって世界中に広がっているのです。

○城山小の育友会会長や平和発信協議会の会長を務められた内田伯（つかさ）さんは、次のような言葉を遺されています。「目から消え去るものは、心からも消え去る。原爆の遺構は、残すこと・見て感じること・伝えることに意味がある」と。

○城山小学校のみなさん、これからも平和への思いをつなぎ、平和祈念館を守っていきましょう。